

議会ガイド



小泊小学校児童議場見学

平成23年3月3日、
小泊小学校の6年生20名が議場見学に訪れました。



〈主な内容〉

- 第1回定例会 …………… 2
- 議員表彰 …………… 6
- 一般質問 …………… 6
 - 川山 光則 議員 …………… 6
 - 荒関 富雄 議員 …………… 8
 - 塚本 悦子 議員 …………… 9
 - 青山 雅晴 議員 …………… 10
- 委員会だより …………… 12
- 議会の動き …………… 12

東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）に被災された皆様に、謹んでお見舞いを申し上げます。



三月十一日（金）午後二時四十六分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震が発生し、その影響は、震源から遠く離れた町内にも及び、停電や電話の不通などが長時間にわたって起こりました。

この地震で亡くなられた皆さまには、心からお悔やみ申し上げますとともに、今も避難されている方々に心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りいたします。

中泊町議会議長 **野上憲幸**

平成二十三年

第一回定例会

平成二十三年第一回中泊町議会定例会が三月二日招集される。



野上 議長

第一日目（三月二日）

本会議

議員一五名出席のもとに開会。会議録署名議員に秋田博議員、山田光春議員を指名、会期を十日間と決めた。

次に三十五議案、報告一件を一括上程し、町長から提案理由の説明。一般会計及び各特別会計予算を審査するため議員全員の委員をもって構成する予算特別委員会に付託することに決定。また陳情の審査結果について報告後、陳情三件を採択し散会。

第二日目（三月三日）

一般質問通告締切
議案熟考のため休会

第三日目（三月四日）

第五日目（三月六日）

議案熟考のため休会

第六日目（三月七日）

本会議

一般質問に、川山光則議員、荒関富雄議員、塚本悦子議員、青山雅晴議員が登場。

第七日目（三月八日）

予算特別委員会

第八日目（三月九日）

中学校卒業式のため休会

第九日目（三月十日）

予算特別委員会

第十日目（三月十一日）

本会議

上程してある議案三十五件、報告一件、発議五件について審議した結果、原案どおり可決、同意、承認。

また、陳情一件について、民生文教常任委員会に付託して閉会。

審議された議案

条例

○住民生活に光をそそぐ基金条例の制定

これまで住民生活にとって大事な分野でありながら、光が十分に当てられてこなかった分野（地方消費者行政、DV対策・自殺予防等の弱者対策・自立支援、知の地域づくり）に対する取り組みを強化するための基金を設置するため提案するもの。

○職員等の旅費に関する条例等の一部改正

職員等の旅費の額を現行1kmあたり車賃20円から25円へ改正するもの。

○国民健康保険条例の一部改正

国民健康保険法の一部改正に伴い、出産育児一時金の支給額を現行38万円から42万円へ改正するもの。

○基幹集落センター条例の一部改正

○日本海漁火センター条例の一部改正

○すくすくしたまえ館条例の一部改正

○ふれあい運動場条例の一部改正

各施設の使用料等の減免について見直しするため改正もの。これにより中里・小泊両地域の減免内容の統一が図られる。

補正予算

○一般会計補正予算第十号

歳入歳出とも一億六三十七万六千円を追加し、歳入歳出予算の総額を七六億八〇六〇万四千円とするもの。

歳出の主なもの、国民健康保険特別会計の事業勘定及び診療施設勘定への繰出金を計上。国の補正予算に係るものとして、住民生活に光をそそぐ交付金事業及びきめ細かな交付金事業等を追加し、そのほとんどを繰越明許費として設定。また既定予算額の精査等による介護分野人材育成事業、重度心身障害者医療費、子ども手当、後期高齢者医療

特別会計繰出金、西北五環境整備事務組合負担金、融資主体型担い手育成事業、海岸漂着物回収及び処理事業費の減額など、それぞれ所要額を計上。

歳入については、歳出との関連において町税、地方交付税、国庫支出金、県支出金、繰入金、町債等について調整のうえ計上したほか、町税については収入見込額を精査し、減額計上。

平成二十三年で予定する業務委託のうち本年度において契約の締結を要するものについて債務負担行為を追加設定するとともに、既設定のパソコン等更新リース料に係る債務負担行為について契約実績に基づき変更。地方債については退職手当債を廃止したほか、事業費の確定などに伴い変更。

○国民健康保険特別会計補正予算第六号

事業勘定の補正額は、歳入歳出とも七七〇七万八千円を追加し、歳入歳出予算の総額を二五億三二九万七千円とするもの。

歳出は、保険給付費及び諸支出金の追加、並びに共同事業拠出金及び予備費の減額など。

歳入は、国庫支出金、県支出金、共同事業交付金及び繰入金等について調整のうえ計上。国民健康保険税は収入見込額を精査し計上。

診療施設勘定の補正額は、歳入歳出とも三九〇万八千円を減額し、歳入歳出予算の総額を六億四四二万七千五百円とするもの。

歳出は、既定予算額の精査等により施設管理費及び医療費を減額。

○介護保険事業特別会計補正予算第五号

歳入歳出とも七八一万三千円を追加し、歳入歳出予算の総額を十四億三六五万七千四百円とするもの。

歳出は、施設介護サービス給付費、地域密着型介護サービス給付費及び施設開設準備経費特別対策事業費補助金の追加、並びに居宅介護サービ

ス給付費及び地域密着型介護予防サービス給付費の減額。

歳入は、歳出との関連において、国庫支出金及び県支出金等を調整のうえ計上。

○農業集落排水事業特別会計補正予算第一号

歳入歳出とも既定の予算額とし、歳入予算について内部補正をするもの。歳入は、前年度繰越金の追加、それに伴う一般会計繰入金の減額。

○漁業集落排水事業特別会計補正予算第一号

歳入歳出とも既定の予算額とし、歳入予算について内部補正をするもの。歳入は、前年度繰越金の追加、それに伴う一般会計繰入金の減額。

○特別養護老人ホーム静和園事業特別会計補正予算第五号

歳入歳出とも四八万六千円を追加し、歳入歳出予算の総額を三億一八一万三千円とするもの。

歳出は、感染対策用薬剤購入費及び温泉ポンプ電気料を計上し、歳入は温泉ポンプ利用電気料負担金収入等を計上。

○後期高齢者医療特別会計補正予算第三号

歳入歳出とも九五万二千円を減額し、歳入歳出予算の総額を二億二四七万三千円とするもの。

歳出は、後期高齢者医療連合納付金の確定による減額。歳入は、諸収入に療養給付費負担金過年度分返還金を計上し、繰入金を減額。

その他

○指定管理者の指定について

指定期間が満了となるため以下の施設について指定管理者を定めるもの。

・折腰内オートキャンプ場
管理者：(株)小泊うみどりー
む振興社

期 間：3年間
・折腰内交流施設「ポントマリ」
管理者：海峽小泊
期 間：3年間

・すくすくこども館
管理者：(株)小泊うみどりー
む振興社
期 間：3年間

・すくすくこども館
管理者：(株)小泊うみどりー
む振興社
期 間：3年間

- ・基幹集落センター
管理者：小泊漁業協同組合
期間：3年間
- ・中里職業能力開発校
管理者：職業訓練法人中里職業訓練協会
期間：3年間
- ・すくすく折戸館
管理者：折戸町内会
期間：5年間
- ・徐福の里物産品直売所
管理者：小泊観光協会
期間：3年間
- ・高齢者生活福祉センター
管理者：社会福祉法人中泊町社会福祉協議会
期間：3年間

○負担付き寄附の受け入れ
町道敷地として使用することを条件とした寄附を受け入れるため議会の議決を求めるもの。

報告

○一般会計補正予算第九号
青森県農林漁業災害経営資金利子補給事業及び平成22年産米「価格下落・高温障害等」被災農家支援事業の実施

並びに株式会社小泊うみどりーむ振興社への出資、除排雪経費の不足に伴い、予算補正を要するため専決処分したので、報告し、承認を求めるもの。

人事案件

○固定資産評価審査委員会委員の選任について
任期が五月一六日で満了となることから、現委員阿部鐵雄氏、阿部二郎氏、長利傳氏を選任するもの。

○教育委員会委員の任命について
任期が五月一七日で満了となることから、現委員馬場百合子氏を任命するもの。

発議

○議員派遣について

議員の限られた会期中の活動に加え、調査や研修等、また、国や県に対しての要望活動など、議会において必要があると認めるときは議員の派遣

遣ができるようにするもの。
○議会の議員の選挙区の設置及び各選挙区において選挙すべき議員の数に関する条例の廃止
条例の適用期限が終了したことにより条例を廃止するもの。

○非核三原則の法制化を求める意見書
非核三原則の法制化を求め、るように政府に意見書を提出するもの。

○大幅増員と夜勤改善で安心・安全の医療・介護を求める意見書
看護師等の大幅増員を実現し、安全で行き届いた医療・看護・介護の拡充を図るための対策が講じられるように政府に意見書を提出するもの。

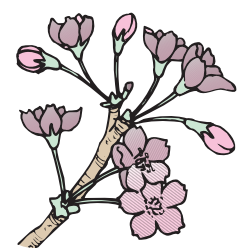
○社会資本整備を国の責任で実施する東北地方整備局青森河川国道事務所の存続を求める意見書
全国に遅れている道路網整備のための公共事業費の予算配分を確保するとともに、防

災・維持管理に重点配分する必要があることから、青森河川国道事務所を存続出来るように政府に意見書を提出するもの。

町長提案理由説明



私は、一昨年の四月に合併後二期目を再選させて頂き、来るべき平成二十三年度は二年目に入るわけでありますが、その間も常に町民の目線で公平・公正な町政の運営を基本とし、明るく活力ある住みよい中泊町を目指して、住民福祉の向上と町勢発展のため最大限の努力をしてまいりました。
さらに「大地の恵みと海の幸



心ひとつに希望のまち」を早期に実現すべく目標を定め、今現実にある課題から将来への展望を確実に予測しながら歩んでいるところであります。

この間、町の財政運営においては、多額の町債残高を抱えているため、慎重の上にも慎重を重ねその運営に意を傾注しながら、その現実を認識し、町政が抱える課題に取り組んでまいりました。

山積している課題の中でも、合併に係る財政面の特例措置を最大限に活用しながら、諸行政に対処してまいったところであります。

このことにより、中里・小泊両地域の一体感の醸成が進み、まちづくりが進展しつつありますことは、ひとえに議員各位をはじめ、町民の皆様の温かいご支援とご協力の賜と深く感謝申し上げます。

予算特別委員会

三月定例会に提案された平成二十三年度一般会計予算及び特別会計の予算について、議員全員で構成する予算特別委員会（川山光則委員長、長利司副委員長）を開会。会期を三月八日、一〇日の二日間と決めた後、付託された八件に対する審議が行



川山委員長



長利副委員長

われ、三月十一日の本会議において原案のとおり可決された。

平成二十三年度の 予算の概要

○一般会計予算

歳入歳出予算の総額は歳入歳出とも七二億三七〇万円。前年度当初予算に対して五億八六〇〇万円、八・八パーセントの増。

歳出の主なものは、総務費として、電算システム導入経費及びふるさと雇用再生特別基金事業、衛生費として、対象者の負担の伴わない子宮頸がん等ワクチン予防接種委託料及び一般廃棄物最終処分場建設事業費、農林水産業費として、県営高根地区湛水防除事業費、県営薄市地区ふるさと農道緊急整備事業費及び海岸漂着物地域対策推進事業費、土木費として、小泊中学校一号线法面保護工事費、折戸下前防護工事費及び町道新設改良工事費、教育費として、スクールバス購入事業費及び体育センター改修事業費を計上。

また、衛生費における、循

環型社会形成推進地域計画事業の一般廃棄物最終処分場建設工事及び一般廃棄物最終処分場建設工事監理業務については、平成二十三年度から平成二十四年度の継続費を設定。総務費の電算システムリース料については平成二十三年度から平成二十八年度までの債務負担行為を設定。

歳入については、町税及び地方交付税のほか、国庫支出金、県支出金及び町債など見込額を精査したうえで計上。

○国民健康保険特別会計予算

歳入歳出予算の総額は、事業勘定で歳入歳出とも二四億五四三万七千円、診療施設勘定で五億三四六万四千円。

○介護保険事業特別会計

歳入歳出予算の総額は歳入歳出とも十三億九八八万三千円。

○農業集落排水事業特別会計

歳入歳出予算の総額は歳入歳出とも三七一萬三千円。

○漁業集落排水事業特別会計

歳入歳出予算の総額は歳入

歳出とも二六四万七千五百円。

○特別養護老人ホーム静和園事業特別会計

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出とも三億六二八万五千円。

○後期高齢者医療特別会計

歳入歳出予算の総額は歳入歳出とも二億三万八千七百円。

○水道事業特別会計

収益的収入及び支出予定額として、収入に三億五二四万六千円を、支出に二億九六一万二千円を計上。また、資本的支出予定額として一億七三万四千円を計上。資本的支出予定額は、過年度分損益勘定留保資金で補てんするもの。

傍聴席は、 あなたの席です！！

中泊町議会 平成23年第2回定例会は、
6月初旬です。

会議は公開されており、
どなたでも議会の傍聴ができます。
平成23年第1回定例会の傍聴者は、
6名でした。

皆さんの傍聴をお待ちしております。

一度、町議会へ足を運んで、
自分の目でご覧下さい

議員表彰

このたび、地方議会議員としての長年の功勞により、沖崎勲議員、白川孝憲議員、角田廣議員、山田光春議員、川山光則議員が表彰を受けられました。誠におめでとうございます。今後とも、地方自治発展のためご尽力いただきたいと思います。



沖崎 勲 議員

青森県町村議会議長会表彰 19年以上在職



白川孝憲 議員

全国町村議会議長会表彰 15年以上在職

一般質問

※質問議員の発言は、議員間の取り決めにより、800字程度に要約して掲載しています。また、答弁についても要約しています。

川山光則 議員



質問

第1

当初予算は新町建設計画及び長期総合計画にどの程度反映されているのか

23年度当初予算書を見ておりますが、予算書の中身で、今後のまちづくりになるような、夢が持てるような予算計画がないのかなという気持ちで見えておりました。何か私が見るところによると、目新しいものがないと。確かに23年、24年度でごみの処分場が計画、24年度で終わる予定になっていきます。また、ことしの2月、小泊中の体育館が完成いたしました。それやこれやにお金が使われ、予算的に苦しいのはわかります。しかし、もう少し将来に向け、夢のある予算が2つ3つあってもよいのではないかと私なりに考えています。19年の町の長期計画の中で、クリーンエネルギー推進

として太陽光発電、風力発電、波力発電等の推進をうたっています。なかなかその実施に向けた計画が見えていないのではないかと私なりに思っています。予算的なこともあるかもしれませんが、今後に向けた考え方を伺ってきたいと思います。

質問

第2

今後の小泊中学校について

新しい体育館ができて間もなくで、まだ早いと思われるがちですが、現在小泊のこども園では5歳で22人、4歳が14人、2、3歳が19人、ゼロから1歳が5人と、5年で60人くらいです。これを10年後の中学校に当てはめますと、3学年で40人弱になるようです。10年後には、とても中学校として成り立つものではないのではないと私なりに思います。勉強はできるとしても、部活や人生勉強が育つていけないのではないかと。10年といても、過ぎてしまえばあつという間です。10年後を見据えて、そろそろ小泊の中学校のあるべき姿を議論していくべきだと思いますが、町長、教育長の考えを伺います。

●小野町長答弁

義務教育の充実につきましては、教育委員会と連携のもとに中泊町の子供たちが将来に向けて大きく成長できるように、教育環境の整備に努めているところであります。先般も議員初め関係各位のご協力により小泊中学校体育館が完成し、学校教育で利用するとともに、社会体育の事業にも早速利用されております。

学校の設置については、地区に設置された学校を存続することを基本とするものですが、全国的な少子化傾向は当町でも顕著にあらわれており、昭和60年度には旧中里町と旧小泊村を合わせて小学校が11校、中学

青森県町村議会議長会表彰 11年以上在職



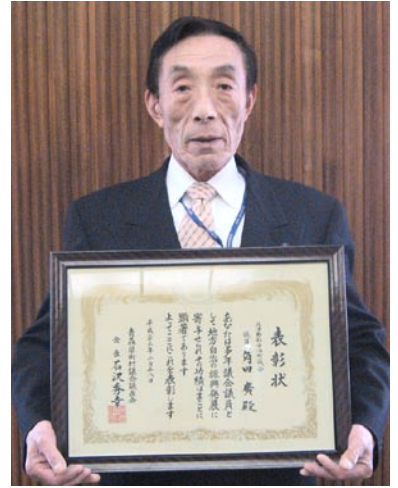
川山光則 議員

青森県町村議会議長会表彰 11年以上在職



山田光春 議員

青森県町村議会議長会表彰 11年以上在職



角田 廣 議員

小泊中学校の生徒数の減少は、すなわち小泊小学校の減少でもあるわけです。言うまでもなく、この減少は少子化の減少であります。そこで、10年くらいの小泊中学校の状況を見ますと、22年度、今年度は122名ということで5学級ありました。23年度、いよいよ来年度から3けたが2けたになると、90人台に入っていきます。5学級が4学級、それから24年も4学級ですけれども、25年度にはいよいよ1学年1学級ずつになるのです。この辺から学校の機能が果たしてこのままいいのかということが一番心配されるわけでありまして、小学校の場合は複式学級が完全になれば、これは学校の体をなさないということで、下前小学校が小泊小学校へ統合したわけでありまして、そろそろ先の見通しを検討しなければいけないと、こういう段階に入ったのではないかと思っています。

そこで、23年度から、段階を踏んでの意見集約をしていかなければいけないだろうと思っています。まず、現場サイドの意見集約、それから保護者のサイドの意見集約と段階を踏んでいきたいなと思っています。そして、教育委員会の検討、最終的には町長のほうに具

校は4校が設置されておりましたが、現在では小学校が4校、中学校が2校であります。この質問の小泊中学校の生徒数についても、年々減少していることは十分に認識しております。これが教育現場にどのような影響を及ぼすのか懸念しているところでもあります。子供たちがよりよく学べて切磋琢磨できる環境を整備するためにはどうあるべきか、今後の少子化の傾向を見きわめ、教育委員会とともに検討してまいりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

●加藤教育長答弁

申しながら議会の承認を得なければいけないと、こういう最終段階があるわけでありまして、その前にもやっぱりきちんと適宜段階を踏んで、適宜議会のほうにも報告しながら、最終の成案をまとめていきたいと、こう思っております。できれば来年度中、あるいは早ければ年内中にもある程度の見通しをつくりたいなと、こう思っておりますので、文教委員長の川山議員にも一働きお願ひしたいとお願ひ申し上げて、答弁いたします。

●秋元総務課長答弁

まず、予算編成の仕組みについてご説明申し上げますと、新年度予算編成に当たりましては、前年度の8月ごろに長期総合計画の実施計画に基づいて各課等の事業を取りまとめし、これを計画担当と財政担当が合同でヒアリングを行い、事業のランクづけを行っております。この事業を新年度予算に反映させておりますので、提出された予算案は長期総合計画に基づいた事業であることをまずご理解いただければと思います。

まず新町建設計画については、22年度までにほぼ完成しているところです。残された小泊小学校の校舎あるいは体育館の耐震補強工事については、24年度で実施する予定です。また、新庁舎建設事業については、合併時に大幅な改修をしていますので、当分の間先送りをする予定です。

次に、長期計画ですけれども、後期計画として平成23年度は、72事業を計画しております。59事業を当初予算に計上し、5事業を国の経済対策交付金事業として補正予算に計上しております。合わせて64事業、計画に対する予算計上率では89%となっています。まだ実施されていない8事業については、社会情勢や財

政状況、また投資効果などを総合的に勘案し、計画をスライドするなど今後検討していく予定でありますので、ご理解をいただきたいと思っております。

荒関富雄 議員



質問 第1 産業振興と人材育成について

産業振興と人材育成についてであります。その中で一番大切なものは、卵が先か鶏が先かではありませんが、人材育成をどのように行政サイドでは考えているのかと。人材育成にもいろいろございます。人的な量の問題、質の問題がございます。産業構造が変革していった中で、農業青年だけではなくこれから町を支えていく青年をどう育てていくのか、お聞きします。

昭和60年代は1次産業である農業では大体60億円ぐらい稼いでいたわけでありまして。それが今現在では大体、18年の統計ですが、農業だけでは21億円ぐらい、漁業、林業も合わせた1次産業で30億円ぐらいになっています。どんどん衰退しているわけです。町独自の産業振興策を示していただきたい。

今世の中の流れは6次産業化と言われておりますが、長期計画の中に本当の町独自の産業振興策があるのか

と疑問に思っております。自治体の財源にもいろいろ帰依するところがあるとは思いますが、財源はいつの時代でもなかったはずであります。意識改革をして、町独自の振興策を打ち出さなければ、町に一括交付税なり交付金で財源が配分されたときに、にわかには物事をやっては絶対いいものがないと思えます。町民の知恵と工夫のもとに町独自の産業振興策を打ち出せないものか、当局の見解を伺います。

●小野町長答弁

このご質問は、非常に頭の痛い問題でして、どうしたら所得向上が図れるのか常に考えております。しかし、当町の現状を見てみますと、主産業である農業や漁業が衰退してきております。さらには公共事業等の落ち込みにより建設業等も振るわないことから、現金収入を得る仕事がなく、町民所得は伸びない状況であります。所得の向上を図るためには、これまでも企業誘致など進めてきましたが、さらに賃金の安い中国、ベトナムを初め海外に進出する企業が続出しまして、当町から撤退していきましました。ただ、地元の皆様方の努力により、弱電、縫製の工場、高齢者対策の施設が数カ所設置されて、地元の方々の働く場所が確保されていることはとても救いであると考えています。また、大きな金額ではございませんが、農産物直売所ピュアにおける販売が好調であると聞いております。このことにより所得の向上に結びつくヒントがないかと考えております。当町にはコマやトマト、それに海産物など、1次産業の生産物は大量にあります。これを2次産業で加工し、3次産業で販売するルートを確認して、所得の向上を図っていきないかを模索してみたいと思っております。また、町内のグループが

グリーンツーリズムによる町おこしをしたいと頑張っており、昨年は地域おこし全国大会の分科会を誘致し、本年に入り大学生の現場体験学習を引き入れるなど、その実績を上げてきております。各種研修会に参加し、話を聞いても、農山漁村におけるグリーンツーリズムは、やりようによつては十分所得の向上につながると思っております。このような人々たちを応援し、活性化につなげたいと考えています。

これらの対策であります。地元の人たちが地元の資源を活用し、地元で加工し、それを販売する仕組みを整え、所得向上を図っていくことを計画しています。本年度において農産加工所の建設計画を策定する予定です。加工所の建設については、これまでも要望が出されておりましたが、実施主体や原料供給、販路の確保に見通しが立たず、実現していませんでした。しかし、最近米粉の利用が注目を集めており、これだけコメを生産している当町にとつて大変希望の持てる加工品であることから、これをぜひ研究してみたいと思っております。また、トマト栽培も定着してきておりますが、市場に出せない規格外のトマトを加工し、販売できないかとも考えており、これらを加工する場所として加工所を計画する予定としたものです。

なお、計画の策定に当たっては、これまで課題のあった問題を広く検討調査した上で実現にこぎつけてまいりたいと考えているところであり、このためには、議員の皆様方にも計画の段階から参画をしていただき、さまざまなご意見を伺う予定でありますので、その際にはご協力をよろしくお願いたします。

次に、町の意欲ある青年の人材育成のため、先進地視察研修等の考えはあるのかというご質問ですが、昨年は農業の担い手で組織する認定農業者の会総会など

で、町に対して会の皆様から研修等の要望があれば、それに対応していく考えを示してきたところであります。基本的な考え方としては、農業以外の各種産業においても同じだと思います。これまでは各団体等から具体的な要望がありませんでしたので、研修等は行われてこなかった状況であります。しかしながら、指摘のとおり町の発展のためには次代を担う若者たちの人材育成が極めて重要であると考えております。今後は、研修等も含めまして人材育成のための方策についても議員の方々ともいろいろご相談しながら検討したいと考えています。

荒関富雄議員 再質問

加工所については、流れを見ますと、物をつくることはできるけれども、販売が弱いと言われておりました。であれば、ここで加工したものを地元で売るのでなく、販売戦略を立てて、町外なり、また他県まで推し進める考えがあるのか、現段階でおわかりのところで結構でございますので、ご答弁願えればと思います。

飯塚農政課長答弁

販路の関係ですが、6次産業化法がことしの3月1日から施行され、詳しい内容の説明会等ございませんが、各県に1人ずつ、6次産業化のプランナーという専門家を23年度中に配置するという計画です。その方がいろいろ販路等指導いただくということになっていきます。

販路については町の職員ではなかなか難しいところがあるわけですが、昨年から商工連携ということで、県のほうで専門に相談に乗るといような部署もできていますので、具体的な計画ができましたら、県や国

のほうにも指導を仰ぎながら進めていきたいと考えています。

塚本悦子議員



質問 第1 税等の収納対策について

直近の町民税、固定資産税、国民健康保険税及び保育料の滞納についての状況と今後の対策についてお尋ねいたします。

私は、新年早々地元の納税組合に招待され、その席上で組合員から「組合員はまじめに税を完納しているのに町では何年も払っていない人もいます。まったく不公平ではないか。」と強く指摘されました。滞納分を払わなければ差し押さえる市町村が増えていますが、それは生存権を脅かすとか非道なやり方だと言われ、自治体にとって難しい問題ですが町民の指摘するのはもつともです。

また保育料については、子ども手当の代わりに扶養控除が廃止され一月から上がるようです。それに伴い保育料負担が増になる子育て世帯が出てきます。いづれにしても納付している人と滞納者との不公平がないように、そして財源確保のため、今後の取り組み、そ

して税、保育料の不能欠損金に至るならばその内容、理由、対策をお知らせください。

質問 第2 地域に沿った図書館の図書選定について

昨年一町民が農業関係の月刊誌は置いていないというところで不満を洩らしていました。中泊町は一次産業の町で、その町に農業関係の書籍を読めない事は悲しいことです。様々な本を読むことは知識や教養、他者を理解し、思いやりをはぐくみ豊かな人間性を養うことにあります。自治体の特性を生かし、職業、年齢を問わず書籍に触れる楽しさを持たせるため町民のニーズに応えるよう、本の選定に週刊誌、月刊誌を問わず配備を望むものです。

●今税務課長答弁

徴収対策ですが、督促状及び催告状の発行、職員による戸別訪問を積極的に行い、納め忘れの防止をするとともに、分納相談をし、新たな滞納者をふやさないという努力をしています。滞納者に対しては財産調査や給与の照会を行い、青森県市町村総合事務組合と連携しながら差し押さえを行ってきております。さらに、国保税については滞納の状況に応じて短期の給付、そして資格証明の発行を行い、収納率の向上に努めています。また、税、料収納対策本部において、昨年11月8日から19日の10日間、係長以上の職員61名を18班に振り分けし、税及び各種料の重複滞納者150世帯のうち、生活保護者を除く98世帯の臨時戸別訪問徴収を実施しました。また、本年2月21日から3月18日までの日程で、本庁、支所庁舎内の全職員84名、28班に振り分けし、国保税、町県民税を滞納している341世帯の臨時戸別訪問徴収を実施しているところであります。今

後とも税、料徴収対策本部を中心として徴収率向上に努めたいと考えています。

不納欠損については、平成22年度において、平成12年度から平成16年度までの滞納分の一部2、116万6,003円を不納欠損処分する予定であります。この不納欠損の予定の内訳は、居所不明者が25名、高齢者が5名、死亡された方が110名、生活保護者の方が49名、担税能力がない方が195名、総勢384名となっております。

●川島福祉課長答弁

保育料等の直近の収納状況並びに不納欠損についてお答えいたします。収納率では、平成19年度は96.51%、平成20年度は97.81%、そして21年度は98.23%と、毎年収納率は高くなってきております。しかし、毎年の滞納額があり、3年間で188万6,000円ほどです。滞納対策については、督促状を発行するのはもちろんですが、保護者のうちに電話をしたり面談をしたりして納付をお願いして対応してきており、解消に向けて努力しているところであります。

保育料の不納欠損については、今まで実施してきておりませんでした。今後の対応としては、現年度分の滞納を解消し、新規滞納者がなくなった時点で皆様方と相談して不納欠損の処理に当たりたいと考えております。

●小野社会教育課長答弁

地域に沿った図書館の図書選定についてお答えします。質問の要旨は、町民のニーズにすぐこたえられるよう、図書の充実を図るようということであり、限られた予算の範囲内で町民からのリクエストに全部こたえることは、はっきり言って不可能であります。

す。21年度においては300人近い方から600冊ほどのリクエストがあり、その9割以上は新規購入及び県立図書館などからの借り受けによってリクエストに際しておきますので、町民のニーズには大方こたえているかと思えます。

ただし、議員ご指摘の週刊誌、月刊誌については、予算内で年間を通して購入した上で、その利用状況を勘案した上、次の年度に一部を入れかえるという方法で対応しているため、年度途中でリクエストがあっても即対応することは大変困難でございます。何かを中止しなければ新規購入できないわけですから、ある程度の期間は待つてもらわなければニーズにこたえることはできない状況にあります。

今後に限られた予算で、今まで以上に町民のニーズにこたえられるよう努めてまいりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

塚本悦子議員 再質問

子ども手当から保育料の天引きを認める政府の子ども手当法案が成立すると一定の効果を上げられるという声があるが、税の徴収の仕方として口座振替や、広報紙によるPRをしてはいかかがか。

●今税務課長答弁

広報紙による納税の啓蒙も考えております。口座振替、これは常に納税者の方に口座振替をお願いいたしますので、その都度何らかの機会がありましたら町民の方に口座振替のお願いをするつもりです。

塚本悦子議員

税務課だけでなく全職員で収納に力を入れなければ

いけない。生活が苦しくとも一生懸命納付している人との不公平が生じないよう、出来る限り不能欠損金を少なくするよう後輩につけを残さないようにしてほしい。

青山雅晴 議員



質問 第1 給食センターの残地について

給食センターができ上がったからの残地について、どのように処分するのかお聞きいたします。村では墓地を建てる用地が一つも残っておりません。そこで、前に私が提案した中で、一部を対等交換できないものと質問しましたが、町長は給食センターができてどれくらいの残地が残るのか、それから進めるとのことでした。前議員の奈良清治さんもプールの跡地を処分できないか、それに方が一に備えて道路の拡幅をできないかと質問されておりました。もちろん近くの住民の雪の捨て場などを考慮に入れて、考えをお聞きます。

質問 第2 火葬場の状況について

旧中里地区には14カ所の火葬場があったと記憶しております。旧火葬場は、現在今泉1カ所が残っております。前回の町長の答弁では、村なり個人なりで解体

した場合、不足分の一部は町で負担するとの答えでした。先月、町内会の総会では、他の地区がその当時どのようにして取り壊されたのか、その経緯をお聞きします。また、土地の所有者はだれの名義になっていたのか、あわせて伺います。

質問 第3 県道の安全対策について

県道280号線、鰐蟹線の吉見橋についてであります。私もよく通る橋ですが、今泉、蟹田方面から走っても上り坂です。大型車2台がやっとすれ違う箇所です。地区の人だけでなく、隣村からも来る人が見受けられます。人身事故が起きてしまつてからでは遅いです。県へ、歩行、自転車用の通路の設置を要望する考えがあるか、当局の見解を伺います。

●小野町長答弁

ご質問の残地は学校用地として管理してまいりましたが、本年2月22日付で教育財産の用途廃止が提出されております。このことから、今後は普通財産として管理することになります。給食センターの敷地内にフェンスを張っておりますが、そのフェンスから5メートルほど外側までをセンター敷地といたします。現在の利用状況を申し上げます。夏場は何ら利用されておりませんが、草刈りは実施いたしております。また、冬場の雪の降る時期は、集落の道路の雪捨て場として一部利用されております。このことから、冬の時期以外は利用されていない状況にありますので、この残地を有効利用してもらおうための分割測量費を平成23年度の予算に計上いたしております。また、雪捨て場に対しては今後も確保いたしてまいります。そこで、教育委員会からは、売却に際しては悪臭、

ネズミ、ハエ等の発生や農薬散布により、給食センターへ悪影響を及ぼすことのないように十分配慮していただきたいとのことであります。それを踏まえてこれから測量に入りたいと思います。

●横山環境整備課長答弁

各集落にあった火葬場の土地の所有権は同様でありません。国土調査の図面に基づいて調査した結果では、今泉の場合は昭和46年11月8日売買で、唐崎開拓農業協同組合から個人名義に所有権が移っております。薄市の火葬場も現在墓地となっている中であつたわけですが、ここは個人名義から墓地そのものが町の土地になっていると。また、深郷田、八幡集落で利用した火葬場については、土地所有者が中里町大字深郷田字以下大字持となつており、深郷田と八幡集落の共有であると推察されます。それから、火葬場の建物は、現在は今泉集落だけに残っておりますが、何らかの事情があつて解体されないうちに現在に至っているのではないかというふうに推察されます。他の集落の火葬場の建物を例に挙げますと、大沢内や長泥は集落で取り壊したと聞いております。しかし、何分にも古い話でありますので、他の集落もいろいろ調査してみました。定かではありません。今泉集落の火葬場についても、解体はできれば集落で取り組んでいただき、町がお手伝いできるものがあれば相談しながら、その道筋をつけていきたいと思いますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

次に、主要地方道鰐ヶ沢蟹田線の吉見橋に係るご質問にお答えいたします。この橋は、県の橋梁長寿命化計画により、平成21年度に橋面補修や塗装の補修を終えております。歩行用、自転車用の通路の設置の要望

については、今後県のほうへ相談してみたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

青山雅晴議員

給食センターについては、今のところ町長の答弁では、測量しないと残地の面積がはっきりわからないわけですが、残地がどれくらい残るのか。というの、墓地を村の人が10名ほど地元で欲しいということ、今現在一つも建てられない状態でございます。対等交換といつても相手のほうの面積がちよつと大きいもので、これからのいろいろまたその辺話を煮詰めながら、ひとつ前向きにお願いしたいと思います。

火葬場の問題ですが、これはかつて開拓用地でありました。説明では46年の11月8日に個人名義になっているということで、何か開拓のほうでは個人に払い下げたことでも聞いております。これはそういうことだということで、もちろん町内会の会長とも相談しながら、町ではそういう意向だということで、私もそのようなお話しておきます。

あと、鰐蟹線、これは非常に狭く、今泉川と蟹田線の両方から見ても上り坂で、向こうが見えないわけです。自転車で乗って田んぼに行く方もあるし、散歩している方もありますので、ひとつ県のほうに早く要望して設置してもらえればと思います。



総務企画常任委員会 (青山雅晴 委員長) 2月24日(木)

〈案 件〉

- ・ 非核三原則の法制化を求める陳情
- ・ その他



産業建設常任委員会 (長利 司 委員長) 2月24日(木)

〈案 件〉

- ・ 社会資本整備を国の責任で実施する東北地方整備局青森河川国道事務所の存続を求める陳情
- ・ その他



民生文教常任委員会 (川山光則 委員長) 2月24日(木)

〈案 件〉

- ・ 大幅増員と夜勤改善で安心・安全の医療・介護を求める陳情
- ・ その他



議会運営委員会 (兵庫桂蔵 委員長) 2月24日(木)

〈案 件〉

- ・ 平成23年第1回中泊町議会定例会会期日程について
- ・ 提出議案について
- ・ 陳情書の審査結果について
- ・ 新規に受理した陳情等の取り扱いについて
- ・ その他



3 月

- 30日 議員全員協議会
- 16日 自衛隊父兄会総会
- 11日 単行案審議、閉会
- 10日 予算特別委員会
- 8日 予算特別委員会
- 7日 定例会一般質問
- 2日 第1回定例会開会

2 月

- 24日 議会運営委員会
- 18日 総会
- 15日 青森県町村議会議長会
- 15日 務局長会議
- 3日 西北郡議長会議長・事
- 3日 式 小泊中学校体育館落成

1月

- 17日 組織会
- 4日 新年を祝う集い